

2021年10月26日

OSS「Keycloak」開発プロジェクトのメンテナに日立の社員が就任

株式会社日立製作所(以下、日立)のOSSソリューションセンターの乗松 隆志(のりまつ たかし)が、このたび、オープンソースソフトウェア(以下、OSS)である「Keycloak」の開発プロジェクトのメンテナに就任しました。

Keycloak は、Web システムにおけるユーザー管理や認証、アクセス制御など(IAM)^{*1}を行うソフトウェアです。具体的には、Web システムのシングルサインオンや、API 公開時の認証・認可など、クラウドアプリケーションのセキュリティにおいて重要な位置づけにあり、金融や公共分野などでグローバルに活用されています。その開発を担うプロジェクトは世界各国・地域から500人以上の開発者が参画する活発なコミュニティであり、今回、このプロジェクト全体のとりまとめを行う管理者(メンテナ)に日立の社員が就任したものです。

*1: IAM: Identity and Access Management

日立は、クラウドサービスとOSSの組み合わせでAPI管理基盤を素早く構築できる「クラウドAPI管理ソリューション」でKeycloakを利用し、お客さまのビジネスや公共サービスの迅速な拡張や安心・安全なデータ連携を支えています。

日立は、今後もKeycloakなど各種OSSのコミュニティへ参画し、OSSと関連技術の発展や普及に貢献していきます。

Keycloak について

Keycloak はIAMのソフトウェアとして豊富な機能を備えています。SAML・OAuth 2.0・OpenID Connectのような標準規格に準拠し、WebシステムのシングルサインオンやAPI公開時の認証・認可を実現することができます。最近、APIの認証・認可向けの開発が加速し、グローバルの金融機関で導入が進むセキュリティ規格であるFinancial-Grade API(FAPI)にも対応しました。

乗松 隆志のプロフィール

2017年よりKeycloakの開発に参画し、APIの認証・認可のセキュリティを強化する機能を数多く開発してきました。2020年には、FAPI対応の開発を推進するFAPI-SIGのリーダーとしてグローバルの開発者をまとめ、KeycloakのFAPI対応に大きく貢献しました。また、自身が提案したソースコードも数多く採用され、その主要なリリースにおいてリリースノートに謝辞が掲載されるなど、Keycloakに多大な貢献をしています。

開発プロジェクトからのコメント

<https://www.keycloak.org/2021/10/takashi.adoc.html>

日立の OSS の取り組み

<https://www.hitachi.co.jp/products/it/oss/index.html>

日立のクラウド API 管理ソリューション

https://www.hitachi.co.jp/products/it/harmonious/cloud/service/cloud_api/

商標注記

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商号、商標、もしくは登録商標です。

以上